

2011年度 明治安田こころの健康財団 集中講座ご案内【発達障害関係】

(日程、テーマ、受講料等は変更する可能性があります)

*各講座の詳細・最新情報や申込方法は、ホームページ (<http://www.my-kokoro.jp/>) 等で確認願います。

講座番号/ 開催日程	講座名/企画講師(敬称略)	出講講師(出講順、敬称略)	会場/ 募集人数	受講料
No.11120 6/25(土) 13時～18時	第六回・臨床児童青年精神医学入門 臨床児童精神医学研究所 山崎 晃資	松本 英夫:東海大学 西澤 哲:山梨県立大学 本田 秀夫:山梨県立こころの発達総合支援センター 青木 豊:目白大学	財団 講義室/ 120名	12,000 (円)
6/26(日) 9時～ 16時15分	<p>児童虐待にかかわる悲惨な事件、おとな社会からは理解し難い少年事件、さらには「大学入試」におけるIT機器を用いたカンニングなど、現代に生きる児童思春期の子ども達の「こころの問題」は深刻さをましてきている。</p> <p>児童思春期はまさに発達の途上にあり、社会・経済・文化、さらには家庭や保育所・幼稚園・学校の影響を強く受けている。そこで今回の講座では、「子どもの診方と対応の仕方」をテーマとして取り上げ、子ども達をどのように「診る」(観察・評価・診断)のか、子ども達の内的世界をどのように理解するのか、そしてどのように対応していくことができるのかを、さまざまな角度から検討することにした。子ども達と日常的にかかわっている多くの方々には是非、ご参加頂きたい。</p>			
No.11810 7/2(土) 13時～17時	発達障害・精神科疾患の 予防と早期介入、早期治療 浜松医科大学 杉山 登志郎	中島 俊思:浜松医科大学 田中 康雄:北海道大学大学院 野村 和代:浜松医科大学 森 則夫:浜松医科大学 高井 義文:天竜病院 土屋 賢治:浜松医科大学	浜松商工 会議所会 館1階マイ カホール /150名	12,000 (円)
7/3(日) 9時～16時	<p>この度、明治安田こころの健康財団主催の講座を初めて浜松で開催します。統一したテーマは早期介入です。</p> <p>発達障害、情緒障害、そして精神病圏の問題まで、早期の介入によってその病態を著しく軽くできることが、徐々に明らかになってきました。またコホートスタディーによって、様々な問題の早期兆候について、理解が進んできています。さらには二次的な障害を防ぐ手立てについても研究が進んできました。</p> <p>この講座では、これらの新しい知識と臨床の成果をまとめ、発達障害や精神科疾患の予防と早期介入について、考えてみたいと思います。</p>			
No.11140 7/30(土) 13時～17時	今、自閉症教育の創出に向けて 東洋大学 三苫 由紀雄/横浜国立大学 渡部 匡隆	坂井 聡:香川大学 加藤 智子:高島特別支援学校 黒田 純子:洛南中学校 小島 秀子:袋井特別支援学校 磐田見付分校	財団 講義室/ 120名	10,000 (円)
7/31(日) 9時30分～ 15時45分	<p>今、自閉症教育の創出に向けて前進させていく必要があると考え本講座を企画いたしました。</p> <p>長年、自閉症のある児童・生徒の教育は知的障害の教育の中で配慮されてきました。また、特別支援教育の推進の協議の中で、自閉症の障害特性に応じた教育の研究の必要性が提言され10年が経ちました。各地域や学校・幼稚園・保育園等で、自閉症の障害特性に応じた視覚支援や教室の構造化などの配慮や工夫はスタンダードな実践となっています。今日、自閉症に特化した教育として、障害特性やニーズに応じ、将来や地域の生活を見据えた計画的、組織的、かつ実践的な教育の在り方を検討していく必要があると思います。</p> <p>本講座では、注目すべき自閉症教育の実践から、自閉症の障害特性に基づく指導・支援の多彩な工夫やアイデアの実践知と、教室の中にとどまらない学校・家庭、地域、就労へと確実につなげ、豊かな生活を実現していく取り組みについて学んでいきたいと思っています。</p> <p>また、指導・支援の基礎となる自閉症の障害特性、特に、コミュニケーションや般化等について、新たな情報を踏まえ、改めて検討し理解を深める機会にしたいと思っています。是非、ご参加下さいませようお願いいたします。</p>			
No.11820 8/6(土) 9時30分～ 17時	非行臨床 ～なんでもやりなおす・ために・かかわる～ 北海道大学大学院 田中 康雄	藤田 博康:帝塚山学院大学大学院 松嶋 秀明:滋賀県立大学 神谷 信行:神谷信行法律事務所 小野 善郎:和歌山県精神保健福祉センター 高橋 一正:自立援助ホーム「ふくろうの家」	北海道経 済センター/ 150名	12,000 (円)
8/7(日) 9時30分～ 16時30分	<p>今年も夏の北海道で2日間にわたる学習の機会を得ることが出来ました。こういった機会を下さる明治安田こころの健康財団に心から感謝申し上げます。</p> <p>今年は、「非行」について取り上げようと思います。さまざまな要因と契機のなかで、一人ひとりにそれぞれの事情を含みながら、子ども達のなかに非行という行動が生まれるわけです。</p> <p>僕は、その昔に、ある少年院に見学に行き、その少年に「来月ここを出ることになりました。ほっとした思いと、でも僕はそこに戻りだけの資格があるだろうか、ととても不安なのです。僕は、本当にひどいことをしました。そんな僕が、帰っても大丈夫でしょうか？」と、とても真剣に尋ねられたことがあります。大丈夫だよ、と言いたい僕と、それは帰ってからのキミ次第かもしれない、という思いと、ここまで考えるようになったキミを僕はほんとうに偉いと思う、という感想で、心はいっぱいになって、なにをどう伝えるべきか、オロオロしたことを覚えています。</p> <p>僕は、子どもの育ちに付き合う仕事、あきらめずに寄り添い続けようとする仕事のなかで、日々オロオロとするばかりです。</p> <p>今回選択した非行臨床は、非行臨床の実践者、研究者、さらに医療保健福祉分野の専門家、司法からは弁護士のかたに登場していただき、この「すっきりとした明快な回答のない」日常について、一緒に考えていく2日間にしたいと思いました。</p> <p>今年も、また札幌でお待ちしております。</p>			

主催・問合せ先：財団法人 明治安田こころの健康財団

〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10 TEL 03-3986-7021

JR山手線、東京メトロ東西線、西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩約7分

2011年度 明治安田こころの健康財団 集中講座ご案内【心理臨床関係】

(日程、テーマ、受講料等は変更する可能性があります)

*各講座の詳細・最新情報や申込方法は、ホームページ (<http://www.my-kokoro.jp/>) 等でご確認願います。

講座番号/ 開催日程	講座名/企画講師(敬称略)	出講講師(出講順、敬称略)	会場/ 募集人数	受講料
No.11530 7/2(土) 10時～17時	家族療法入門 IPI統合的心理療法研究所 平木 典子	団 士郎:仕事場D・A・N/ 立命館大学大学院 野末 武義:明治学院大学/ IPI統合的心理療法研究所	財団 講義室/ 70名	14,000 (円)
7/3(日) 9時30分～ 16時30分	近年、家族は、子どもの心身の問題、親子間の深刻な葛藤、夫婦の不和など、様々な問題を通して危機を訴えており、多くの人たちが心理的援助を求めています。それに伴い、これまでのように個人としてだけでなく、親子、夫婦でというように、さまざまな組み合わせで心理療法を求めようになりました。 家族療法は、こうした問題に対して、一人ひとりのメンバーの心理的側面や家族メンバー同士の相互影響関係に注目しつつ、家族の成長を促進し、問題を解決するアプローチです。この研修では、家族関係の理解を深めるために、「ジェノグラム(家族関係図)による家族理解」と「カップル(両親)のコミュニケーションと葛藤への介入」をテーマに、家族療法独特の魅力とアプローチについて、実習を交えながら学んでいただきます。			
No.11540 7/9(土) 13時～ 18時30分	ロールシャッハ解釈法<中級> 専修大学 藤岡 新治	中村 留貴子:東京国際大学 小川 俊樹:筑波大学大学院 溝口 るり子:三楽病院	財団 講義室/ 24名 12名2グループ	18,000 (円)
7/10(日) 9時～ 16時10分	本セミナーは、日頃の心理臨床の現場で、心理査定のためにロ・テストを使用しておられ、さらにロ・テストの解釈力をつけたいと考えておられる方々のためのものです。ロ・テストに期待されるのは、クライアント一人一人のパーソナリティ特徴や病理を的確に捉え、クライアントの治療や処遇方針を立てることに生かすことです。そのためには、個々のロ・テストデータを丁寧に読み込む経験や、子どもから成人までの、また異なる病理を持つクライアントのロ・テストデータを知ることが大切だと思います。われわれの心理臨床の場は、一人職場であることも多く、ロ・テストのスーパーヴィジョンを受ける機会を得ることは、なかなか困難かと思えます。そこで事例発表をすることで、講師や参加者と共に自験例を丁寧に検討しなおす経験は、日頃一人では気づきにくい自分の解釈のクセや盲点を知る良い機会になると思えます。多くの方々の参加と、実りある意見交換を期待しています。			
◎受講条件：ロールシャッハ・テストにおける片口法のスコアリングを習得済みで、かつ基礎的な解釈が可能で、個々の事例を通してより深い解釈を学びたい方。また、事例提出者優先となります。詳細はホームページ等でご確認ください。				
No.11230 10/22(土) 9時30分～ 16時30分 (1日コース)	子どもの「依存」する心理 ～「依存」のキーワードで、「子どものこころ」を理解する～ 日本大学 渡辺 登	企画講師が全講義を担当します。	財団 講義室/ 45名	6,000(円)
母親のからだの中にいた頃には、こころの安心や肉体の満足は常に得られていました。胎児は欲しいものをすべて手にしていたので、何ひとつ望むことがなく満たされ続けたのです。依存しないと生きていけないのに、依存しているとさえ思わないですみました。 この世に生まれた後は、依存を始めます。生き延びるために、依存は欠かせません。無力な赤ん坊にとって、母親に抱っこされ、おっぱいを吸ってこそ安心と満足は得られます。見つめたり、微笑んだり、しがみついたり、泣き出したりして、母親からぬくもりやおっぱいを求めるのです。生き延びるために、赤ん坊は言葉にならないメッセージで、母親を思うままにコントロールしようと試みます。 幼児期ともなれば、自発的に動き始めます。親や周りの人に信頼感を抱くので、ひとり歩きは恐くありません。たとえ躓いても、ひるまず希望をもって立ち上がれます。裏切られたとしても、うらんだりせず、人間への信頼感を見失いません。 なぜなら恐れや不安、苦痛に襲われたとき、母親にすがれるからです。温かく見守られているという実感を、子どもはしっかりと抱いています。胸に飛び込んできた子どもを、母親は抱いたり声をかけたりして、不安や苦痛を癒します。子どもが笑えば、母親は笑い返すのです。 母親との相互関係を重ねて、幼児は母親のイメージをこころのなかに造り上げます。安心を与えてくれる母親イメージが、ひとり立ちを支えてくれます。だから母親より離れて、家庭外での活動に主体的に参加していけるのです。 児童期を迎えると、子どもは生き方を分かち合うような仲間を強く求めます。友人との関係では、協調しつつ楽しまなければなりません。なぜなら、友人は同情や寛容という美德を身につけておらず、自分が遊ぶことを優先するからです。友人とは計算ずくで、妥協します。 この妥協は、等しい関係での、支え支えられるという成熟した依存が育まれていく前兆です。自分と同じように欲しい物やしたいことのある友人がいることを知り、楽しく遊び、安心と満足を得るためには自分の欲求を抑えたり、適当なところで手をうつ必要があることを学んでいくのです。 私たちにとって依存することは、悪いことではありません。むしろ依存は、こころの安心と肉体の満足を求めるために欠かせません。発達段階にふさわしい依存であれば、よい依存と判断します。よい依存はつぎの発達段階に進むのに役立つからです。 今回の講座では、胎児期から児童期までの子どもの「依存」する心理について、くわしく解説します。合わせて、皆さまからの質問に積極的に答えようと思っています。				

主催・問合先：財団法人 明治安田こころの健康財団

〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10 TEL 03-3986-7021

JR山手線、東京メトロ東西線、西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩約7分